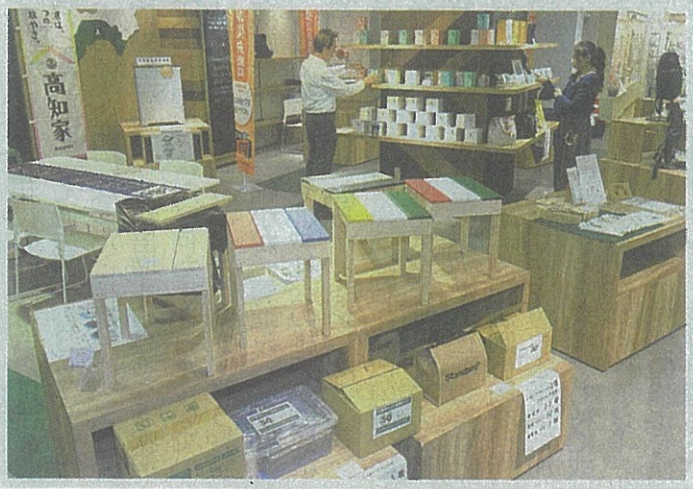
こうちワイド kochi wide

椅子や扇子、こんろ…
普段使いできる防災品販売



普段使いできる防災製品が並ぶ展示販売会（高知市帯屋町1丁目の高知大丸）

県内7社フェア　高知市・13日まで

県内企業が手がける防災関連製品をPRする「備えよう！高知の防災フェア」が7日、高知市の高知大丸で始まった。椅子やインテリア小物として日常使いしながら、災害時にトイレやこんろなどとして使える製品が並んでいる。13日まで。

2020年に結成した「高知防災キャラバン隊」の主催。現在、県内企業19社が参加し、商談などの場で自社だけでなく他社製品もPRすることで、効率的に防災製品の認知度を高める活動を展開している。

フェアでは7社が商品を展示。普段は椅子や踏み台として使い、座面の板を外せば防災用トイレとなる製品や、200㍍の長巻きで、ボックスティッシュとしても使えるトイレットペーパーなどが並ぶ。

県産ヒノキを使った製品では、車中泊など避難生活の際にアロマの香りを楽しみながらリラックスできる扇子や、こんろとしても活用できるスマートフォンなどのスタンドなど、ユニークな製品もある。

10～12日の午前10時～午後5時には、新聞紙で厚底スリッパやコップ、皿などを作る無料ワークショップも開催。キャラバン隊に参加するインタレスト・プロダクション（南国市）の谷村景弓（きょうみ）代表(63)は「実際に製品を手に取ってもらえるし、私たちが使い方を教えることもできる。いつもの暮らしの中で防災を考える機会にしてもらいたい」と話していた。（海路佳孝）